

17. XSTRATA 社(XSTRATA plc)

1. 企業概要

本社	スイス・チューリヒ
主要事業	非鉄金属鉱山、製錬技術
従業員数	19,500 人
決算日	12 月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクストラータ・クロム社 (Xstrata Chrome, South Africa: 100%) ・ エクストラータ・銅社 (Xstrata Copper, Australia: 100%) ・ エクストラータ・ジンク社 (Xstrata Zinc, Switzerland: 100%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2003 年	2002 年	2001 年
売上高 Turnover	3,481.6	1,809.3	613.6
金利・税前利益 EBITDA	811.9	413.7	126.0
資産 Total assets	8,948.3	4,375.1	883.7
流動資産 Current assets	2,041.4	765.6	378.8
使用資本 Capital employed	9,002.1	4,195.0	998.8
純負債 Net debt	(2,221.5)	(573.9)	(456.5)
株主資本 Shareholders' funds	6,525.7	3,566.1	539.1
探鉱費 Exploration expenditure (US\$ million)			

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2003 年	2002 年	2001 年	2003 年の 世界シェア
銅鉱石 (千 t)	398.0	-	-	2.9% (10 位)
銅地金 (千 t)	211.4	-	-	1.4% (20 位)
亜鉛鉱石 (千 t)	314.5	69.9	77.7	3.4% (5 位)
亜鉛地金 (千 t)	641.3	460.0	383.0	6.5% (3 位)
金 (kg)	17,580	-	-	0.7% (17 位)
銀 (t)	401.93	-	-	2.1%(8 位)

4. 沿革

Xstrata 社は、南米における電力やインフラ整備のための投資を目的として、1926 年にスイスで設立された。その後、1990 年に Glencore International 社が Xstrata 社の実質的な権益を取得して、非鉄資源へのビジネスへの道を歩み始めた。Xstrata 社は、南アフリカ共和国においてクロム鉱業を中心とした活動を行っていたが、この数年の内(2001-2002 年)に石炭部門と亜鉛部門を買収により取得して急成長を遂げている。この拡大は、Xstrata 社の最大の株主(40%)である Glencore International 社(本社スイス)の事業の再編という側面もある。

02 年 3 月、Xstrata 社はロンドン株式取引所に上場し、新株発行で US\$1,335.3 百万を調達するとともに、Glencore International 社の豪州と南アフリカ共和国の石炭部門の資産を US\$25.7 億で買収した。当社は規模と分散を重視しており、鉱種や国の分散は安定したキャッシュフローを生み出し、リスクの分散を可能にしている。この観点から、02 年 11 月に MIM 社買収を明らかにした。Xstrata 社の 02 年売上高は US\$1,991 百万、純利益は US\$175 百万であったが、US\$1,406 百万で MIM 社を買収(関連会社を含めると約 US\$33 億)することによって、世界最大級の銅・鉛・亜鉛鉱山(Mount Isa 鉱山)をはじめ、McArthur River, Ernest Henry, Alumbraera を手中に収めることが出来た。Xstrata 社は資産の 43%と純利益の 56%を南アフリカ共和国の鉱山事業に依存していたが、MIM 社取得によりそれぞれ 19%と 27%に軽減することが可能であっ

た。

03年、豪州競争消費委員会は、Xstrata社のMIM社の買収について、豪州内の石炭産業の競争力低下にはつながらないとして承認した。03年5月のXstrata社の株主総会、6月のMIM社の株主総会で承認され、この買収劇は完了した。03年におけるXstrata社の業績は、売上高3,481.6百万ドル(前年比92.4%増)、純利益はUS\$307.8百万、8前年比107.8%増)と大幅な増益を記録した。これは、MIM社を買収したことが寄与している。一方、MIM社の負債総額US\$1,180.9百万が加算されたため、前年のUS\$573.9百万からUS\$2,221.5百万に増加した。MIM社の買収・統合による効果として、MIM本社の人員削減、探鉱活動を既存鉱山周辺に限定し、ノンコア事業の権益を売却することにより、03年はUS\$13.3百万の経費が削減された。

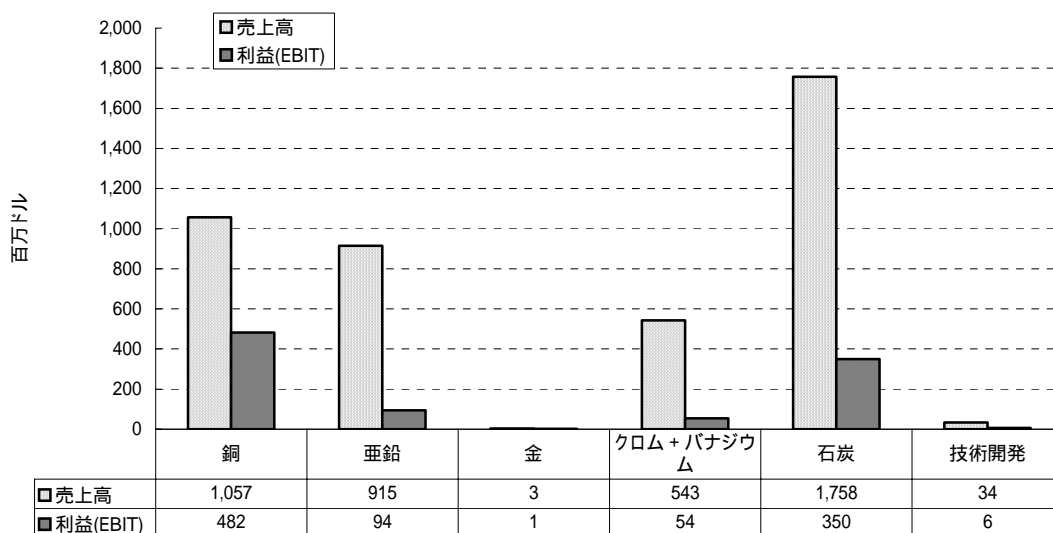
04年10月、WMC Resources社は、Xstrata社から買収の申し入れがあったことを公表した。現在のXstrata社の豪州における生産シェアは、銅(34%)、亜鉛(22%)、石炭(21%)程度であるが、WMCの買収後は銅(58%)、亜鉛(22%)、ニッケル(49%)、石炭(21%)と、豪州の一大鉱山会社となる。さらに、銅製錬の全量(Mount IsaとOlympic Dam)、ニッケル製錬の大部分を傘下におさめることとなり、供給上の支配力を強化することになる。

04年2月23日現在、Xstrata社の株保有状況は、Glencore International AG(40.17%)・Credit Suisse Group(40.38%)・The Capital Group Companies Inc(10.87%)・Fidelity Investments(3%)・Standard Life Investments Limited(4%)となっている。

5. 事業内容

Xstrata社の目標は、地域的にも鉱種的にも多様化した鉱山業の推進、付加価値の創生をあげている。2003年における鉱種別売上高は、銅(45%)・燃料用石炭(29%)・コークス用石炭(6%)・クロム及びバナジウム(14%)・鉛及び亜鉛(5%)・その他(1%)となっており、2002年の燃料用石炭(66%)への偏重から大幅に改善された。また、地理的な売上高は、豪州(44%)・北米及び南米(24%)・アフリカ(21%)・ヨーロッパ(12%)に区分されており、2002年のアフリカ(52%)への偏重から地理的分散が成功している。

2003年部門別売上高と利益



(1) 銅

Xstrata社は、MIM社の買収によってMIM社が保有していた豪州におけるエルネスト・ヘンリー(Ernest Henry)及びマウント・アイザ(Mt. Isa)、アルゼンチンのアルンプレラ(Alumbreira)の主要銅山を傘下におさめた。

2003年における豪州のMt. Isa鉱山では坑内の出水問題により坑内からの銅鉱石が不足したが、スラッグの利用により前年並みの生産を維持した。ただ、副産物クレジットを含むC1キャッシュ

ユコストは2002年の44.1¢/Lbから56.2¢/Lbと大幅に上昇している。Ernest Henry 鉱山は銅(品位1.05%)以外に金(0.53g/t)を含んでおりC1キャッシュコストは40.5¢/Lbであった。Alumbrera 鉱山の場合も、銅(品位0.65%)以外に金(品位0.81g/t)を含んでおり、金品位が高いためC1キャッシュコスト(副産物クレジットを考慮にいたれたコスト)は3.1¢/Lbである。

豪州における2003年の銅精鉱の販売は、TCがUS\$28.50、RCが2.85¢/Lbであった。

2003年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
アルンプレラ (アルゼンチン) Alumbrera	50	372	OP	0.51% Cu 0.6 g/t Au	198.5 千 t (99.3 千 t)
エルネスト・ヘンリー (豪州) Ernest Henry	100	89	OP	1.10% Cu 0.52 g/t Au	99.4 千 t
マウント・アイザ (豪州) Mt. Isa	100	73.8	UG	3.3 % Cu	199.3 千 t

銅地金製錬はMt.Isa(Townsville refinery)で行われており、2003年における粗銅生産は212.6千t、地金生産は211.4千tであった。

2003年主要権益保有製錬所による地金生産

オペレーション名	権益 %	粗銅生産量 千 t	地金生産量 千 t
タウンズビル製錬所 (豪州) Townsville refinery	100	212.6	211.4

(2) 亜鉛

Xstrata社の亜鉛鉱石生産は、MIM社の買収による豪州のMt.Isa 鉱山とMcArthur River 鉱山から行われている。147年間操業をしていたスペインのReocin 鉱山は、2003年3月に閉山となった。鉱量枯渇が予想されていたため、Xstrata Zincは代替の精鉱を確保している。

2003年主要権益保有鉱山による亜鉛鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
マウント・アイザ (豪州) Mt. Isa	100	10.4	UG	5.1% Zn 5.8% Pb	169 千 t
マッカーサー・リバー (豪州) McArthur River	75	39.9	UG	12.4% Zn 2.1% Pb	173 千 t (130 千 t)

亜鉛の製錬は、スペインのSan Juan de Nieva (Asturiana de Zinc)とドイツのNordenhamで行われている。

2003年4月、Sun Juanにおいて新たなOleum Plant(生産能力52千t)が操業を開始した。この生産によって、Xstrata Zinc社は新たな硫酸市場を得たことになる。

2003年主要権益保有製錬所による亜鉛地金生産

オペレーション名	権益 %	粗金属生産量 千 t	地金生産量 千 t
サン・ファン・デ・ニベア (スペイン) San Juan de Nieva Refinery	100	-	480
ノルデンハム製錬所 (ドイツ) Nordenham Refinery	100	-	148

6. 探鉱戦略

(1) 概要

Xstrata 社の探鉱方針や活動に関する最新のデータはない。2002 年末に吸収・合併した MIM 社の探鉱状況と買収後の Xstrata 社長の談話から探鉱方針をさぐってみたい。MIM 社の探鉱部門は、鉱山事業化評価や買収案件等を統括する探鉱・事業開発担当役員のもとに、国内外に探鉱事務所を設置していた。これらの探鉱事務所は、豪州国内だけでなく、アルゼンチン・ブラジル・ドミニカ・メキシコ・ナミビア・フィリッピン等にあった。MIM 社の過去における探鉱費(ベースメタル・金)は、1997 年に US\$47.3 百万をピークに減少傾向にあり、2001 年に US\$14.6 百万、2002 年に US\$14.3 百万の状態であった。

2003 年 5 月 8 日の Xstrata 社の株主総会において、Devis 社長は MIM を変革して利益をあげることを強調するとともに、合併による本社経費削減と探鉱費の削減によって US\$25 百万が節約可能である旨の発言があった。そのため、今後、探鉱予算の削減につながることも予想される。

(2) 対象鉱種

鉱種別探鉱データはないが、金・銅を中心として鉛・亜鉛の探鉱が予想される。

(3) 対象地域・探鉱段階

MIM 社当時ではグラス・ルーツ探鉱を中心とし、鉱山周辺探鉱を実施していた。2003 年 8 月 31 日に実施されたペルーの Las Bambas 銅鉱床の開発オプション権譲渡の入札において、Xstrata 社は、応札メジャー 3 社(CVRD 社・BHP Billiton 社・Phelps Dodge 社)に競り勝ち、US\$121 百万で落札した。Las Bambas 銅鉱床はスカルン型鉱床であり、4 鉱体(Chalcobamba・Ferrobaba・Sulfobamba・Charcas)から構成されており、4 鉱体合計の埋蔵鉱量は 40.5 百万 t(銅品位 2.2%)と推定されている。ポテンシャル鉱量は 5 億 t 以上(銅品位 1%以上)とされており、Antamina 規模の鉱山になるものと期待されている。そのため、今後、Las Bambas 銅鉱床周辺の探鉱も増加することが予想される。